

洪水の仕組み学ぶ

卒業生ら 講演 河川維持や堤防工事も

坂東総合高

職業意識の高揚と水防意識の向上を目的に、坂東市逆井の県立坂東総合高校（鮎川好夫校長）は7日、2年生77人を対象に「防災教育並びにキャリア教育講演会」を開催した。地域で活躍する同校卒業生らが河川工事（河川維持工事・堤防工事）の概要や洪水水害の仕組みなどを解説した。

講師を務めたのは、鬼怒川の築堤工事などに携わる高橋芝園土木（古河市東牛

のほか、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所建設監督官の瀬能真一さんの計4人。

瀬能さんは、2015年の関東・東北豪雨での鬼怒川堤防決壊や全国で発生している洪水水害について触れ、「大洪水は必ず発生するもの」と意識を変え、社会全体で洪水氾濫に備える『水防災意識社会』の再構築が必要」と指摘。その上で、洪水水害から身を守るために「各自でハザードマップなどに日頃から目を通

スライドを使いながら洪水水害の仕組みなどを解説する高橋拓也さん（左）＝坂東総合高校



し、危険回避するためにもうすればいいか考えてほしい」と訴えた。

一方、高橋芝園土木の3人は現場工事のプロの立場から助言。高橋さんは「河川維持工事は、住民が安心して暮らせるように河川堤防を守る軽微なことから重

大な工事まで、1年を通して補修・整備・点検している」と説明。同校卒業生の竹村さんは「現場は掃除が行き届いておりとてもきれい。建設業の新3K（休暇・給与・希望）を実現させるために少しでも興味が湧いたら一緒に働こう」と後輩たちに呼び掛けた。

（小室雅一）